

2022年度「高校生による課題研究活動」の開催及び成果発表について
～高校生が自ら電気やエネルギーを考え、発表する機会をご提供～

2022年12月12日
電気事業連合会

電気事業連合会（以下「電事連」）は、未来を担う児童・生徒たちに電気やエネルギーについて理解を深めていただくことを目的として、学校等に対する教育支援活動を実施しており、その一つの取り組みとして2018年度から毎年「高校生による課題研究活動（以下「本活動」）」^{※1}を一般財団法人日本原子力文化財団と共催しております。

今年度は、課題研究テーマを「30年後には社会の中心となる高校生の皆さんは、2050年の日本のエネルギー社会をどう考えますか。」と設定し、全国の高校からご応募いただき、書類審査を通過した9校（10テーマ）が7月から本活動に取り組みました。

また、本活動の進捗にあわせて、高校生に対し、8月の中間発表会の際に浜岡原子力発電所の施設見学会を合同開催するとともに、10月から11月にかけて専門家や電事連による電気やエネルギーに関する講義を実施いたしました。

そして、12月11日、東京大学における成果発表会で、高校生が本活動の成果を発表し、今年度の最優秀賞は、意識調査から見えたエネルギー教育の重要性の考察に取り組んだ、関西学院高等部の『原発の是非を自分事として提言できるためには一産消交流から見えてくる私達の「無知」ー』が受賞いたしました。

また、成果発表会では、新たな取り組みとしてオーストラリア原子力科学技術機構（ANSTO）による原子力の産業利用に関するオンライン講義を開催し、日豪の国際的な教育交流も実施いたしました。

なお、本活動の状況や成果発表会の詳細等は、「エネ百科」^{※2}にて、順次公開してまいります。

電事連は、今後も引き続き、未来を担う児童・生徒たち自らが「考えて」「行動して」電気やエネルギーを学べる教育支援活動に取り組んでまいります。

※1 高校生が電気やエネルギーに関する自主的な学習を通じて得られた成果を発表する活動で、同時に情報収集力や協調性、表現力、発信力等の能力向上も目指す

※2 一般財団法人日本原子力文化財団がエネルギーに関する情報を発信しているWEBサイト（<https://www.ene100.jp/themed-research>）

<参考1>2022年度「高校生による課題研究活動」成果発表会受賞一覧

<参考2>2022年度「高校生による課題研究活動」成果発表会の様子

以 上

2022年度「高校生による課題研究活動」成果発表会受賞一覧

最優秀賞	<p>関西学院高等部 原発の是非を自分事として提言できるためには －産消交流から見えてくる私達の「無知」－</p>
	<p><概要> 原子力発電所の立地地域から遠い兵庫県において、エネルギー問題に関するアンケートによる意識調査を実施した。意識調査の結果から、「情報を提示することは、無関心層の関心につながるか」、「情報によって喚起された印象が、思考や態度にどんな影響を与えるか」の2点について検証、考察した。</p>
優秀賞	<p>市立札幌開成中等教育学校 次世代を担うクリーンエネルギー、色素増感太陽電池の実用化に向けて</p>
優良賞	<p>京都府立桃山高等学校 ツイスト・ダリウス型風力発電機の開発</p>
	<p>学校法人福井学園福井南高等学校 原発立地地域、電力消費地域の高校も「無関心」ではない ～対話の場を広げていくために～</p>
審査員特別賞	<p>鹿児島県立種子島中央高等学校 潮の力で電気の島に！</p>
奨励賞	<p>市立札幌開成中等教育学校 環境に優しい発電方法を用いて北海道の電力自給率を向上させるには</p>
	<p>栃木県立大田原高等学校 栃木県北部が目指すべき理想的なエネルギー構成に迫る ～電力自給率向上とカーボンニュートラルを実現できる地域社会を目指して～</p>
	<p>筑波大学附属坂戸高等学校 エネルギー自給率改善に向けた中学生のエンパワーメントを向上させる －再生可能エネルギーの生産を体験できる教材開発を通して－</p>
	<p>愛媛県立新居浜工業高等学校 2050年の日本のエネルギーについて ～原子力発電を活用できるかを3つの視点を通して考える～</p>
	<p>熊本県立南稜高等学校 森林と太陽光発電との共存 ～カーボンニュートラルに貢献する森林を育成する～</p>

以上

<参考2>

2022年度「高校生による課題研究活動」成果発表会の様子

<成果発表会の様子>



<最優秀賞の表彰の様子>



審査委員長の東京大学 環境安全本部
飯本武志教授（左）と関西学院高等部

<ANSTOによる教育交流の様子>



以上